

第 11 回 SD フォーラム

テーマ：実践知を活かす

大学職員は大学運営に関わるプロフェッショナルとして、時代を見据えた的確な舵取り能力と、環境の変化や社会のニーズを正確に分析し、それを大学における意思決定や社会的使命である教育・研究に反映させる能力が求められています。

11 回目を迎える今年度の SD フォーラムは、「実践知を活かす」をテーマとし、基調講演と様々な分野の人材育成の「実践知」に関する分科会を通じて、大学職員の能力向上につなげます。

このフォーラムで得られた成果を今後の各大学・短期大学におけるチームマネジメントや人材育成に活かしていただくことを目指します。

【開催概要】

日時：2013 年 10 月 20 日（日）10 時～17 時 30 分

会場：キャンパスプラザ京都 京都市下京区西洞院通塩小路下る（JR 京都駅ビル駐車場西側、ビックカメラ前）

対象：大学・短期大学の教職員

定員：基調講演 180 人（先着順）、各分科会 30 名（先着順）

申込期間：加盟大学・短期大学 8 月 1 日（木）～9 月 6 日（金） →締切延長します。 9 月 13 日（金）

非加盟大学・短期大学 8 月 9 日（金）～9 月 6 日（金） →締切延長します。 9 月 13 日（金）

※定員に空きがある場合でも、準備の都合上、当日の参加申込、分科会の変更はできませんのでご了承ください。

申込方法：（公財）大学コンソーシアム京都ホームページ「第 11 回 SD フォーラム」のバナー

（URL：<https://event.consortium.or.jp/sd11/>）から、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力してください。

申込者メールアドレス宛に「SD フォーラム参加申込フォーム」の URL をお送りしますので、申込手続きを行ってください。（「参加申込フォーム」の URL をお知らせするメールが届かない場合は、メールアドレス誤入力等の可能性がありますので、再度、手続きを行ってください。）

申込手続き完了後の変更はできません。申込手続き完了後に「申込み完了メール」をお送りします。

翌日になっても「申込み完了メール」が届かない場合は、大学コンソーシアム京都までお問い合わせください。

※8 月 1 日（木）～8 月 8 日（木）の期間は、公益財団法人 大学コンソーシアム京都の加盟大学・短期大学の先行申込期間となっておりますので、この期間は加盟大学・短期大学以外の方は、お申込みできません。

参加費：加盟大学・短期大学の方 3,000 円

非加盟大学・短期大学の方 6,000 円

※参加費払込後の返金には応じかねますので、ご了承ください。

なお、参加費を払込後に不参加となった方には、「第 11 回 SD フォーラム」報告集を後日、送付いたします。

参加費払込：申込手続き完了者宛に、後日、郵送にて払込票（請求書）をお送りしますので、最寄りのコンビニエンスストアで参加費の払込みを行ってください。取扱い可能なコンビニエンスストアは、同封している払込票の裏面を参照してください。なお、銀行（ゆうちょ銀行・ネットバンク含む）等の金融機関からの振込みはできませんので、ご留意願います。また、申込み手続きと参加費の払込みが完了していない方は参加できません。

振込締切日：2013 年 9 月 20 日（金）24 時まで（9 月 7 日～9 月 13 日申し込み分は 9 月 27 日（金）24 時まで）

参加証：参加費の払込みが完了した方には、10 月上旬に「参加証」をメールで送信します。10 月 9 日（水）までに参加証（メール）が届かない場合は、大学コンソーシアム京都までお問い合わせください。当日は、送信された参加証（メール）を各参加者がプリントアウトして持参し、受付にてご提示ください。

なお、代理の方が参加される場合は、当日、受付にお申し出ください。

その他：2014 年 3 月に報告集を参加者全員に郵送する予定です。

－プログラム－

9時30分～ 受付開始

10時～12時 第1部 基調講演

講演テーマ：「いかに経験から学ぶか ～実践知の獲得プロセス」

講師：松尾 睦 氏（北海道大学大学院経済学研究科 教授）

経歴：学部：小樽商科大学商学部卒

大学院：東京工業大学社会理工学研究科博士課程修了

英国ランカスター大学経営大学院博士課程修了

学位：東京工業大学学術博士 Ph.D. (in Management Learning)

実務歴：東急総合研究所

本講演では、経験学習の基本的な考え方を説明した上で、

① 人材の成長プロセス、② マネジャーの経験学習プロセス、③ 経験学習を促している企業事例を紹介します。

12時～13時30分 お昼休み

13時30分～16時 第2部 分科会

分科会 A

「自律的人材育成へのヒント ～京都花街、舞妓さんの実践知に学ぶ」

報告者：西尾 久美子 氏（京都女子大学 現代社会学部 教授）

経歴：京都府立大学卒業後、大阪ガスに勤務。退社後、滋賀大学経済学部にて社会人入学する。同大学卒業後、神戸大学大学院経営学研究科に進学し、同研究科博士後期課程修了。博士（経営学）取得。博士論文のタイトルは「伝統文化産業におけるキャリア形成と制度—京都花街の芸舞妓の事例」。同研究科助手、COE 研究員を経て、2008年京都女子大学准教授。2013年4月より現職。専門は経営組織論、キャリア論。

舞妓志望者の10代の少女たちは多くが京都以外の出身者で、1年程の修業期間を経て、「舞妓」としてデビューします。なぜ、彼女たちは短期間でサービス・プロフェッショナルになれるのでしょうか？

京都花街の人材育成について、経営学の視点から解き明かし、仕組みを円滑に運用する「言葉」をご紹介します。

当日は参加型のセッション等も交え、舞妓さんの実践知を、どのように活用するのかについても考えていきたいと思えます。

*参加ご希望の方は、『舞妓の言葉—京都花街、人育ての極意』（出版社：東洋経済新報社）をお読みください。本で取り上げられた「言葉」の中からご自分が使いたいと思う言葉を3つ選択し、選択の理由についてA4で1枚程度にまとめたものを、事前に提出して下さい。

提出締め切り：10月4日（金） 提出先：sd@consortium.or.jp

京都花街の人材育成について基礎知識をお持ちであることを前提に、各人の問題意識や関心に応じてワークショップを進めます。

分科会 B

「参加型の場を創る ～ワークショップの実践知に学ぶ」

報告者：中野 民夫 氏（同志社大学 政策学部 教授 ワークショップ企画プロデューサー）

経歴：東京大学文学部卒。広告会社の博報堂に就職し、30歳過ぎに休職してサンフランシスコの大学院 CIIS に留学し、組織開発や、平和や環境問題の根本原因の解決のためのワークショップを研究。会社に復職後は、企業の社会貢献や広報活動、愛知万博で NGO が主役の地球市民村など、社会テーマ系業務を主に担当した。明治大学、聖心女子大学、立教大学大学院などの兼任講師を経て、2012年春に退職し、2012年度から同志社大学へ。

一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験し、相互作用から学びあう双方向の学びと創造の場「ワークショップ」が、分野を超えて広がっています。このような「参加型の場」を円滑に進行する協働促進の手法が「ファシリテーション」です。ファシリテーションは、創造的な対話を促進し、コミュニケーションを深めることで、身近な会議や組織活性化にも応用されています。これらの基本を、体験と講義を通して整理してみたいと思います。

分科会 C

「コーディネーションとマネジメントの日々の現場経験を通して ～秘書の実践知に学ぶ」

報告者：伊戸 睦 氏（公立大学法人大阪府立大学 理事長室 調整・秘書グループ 総括主査）

経歴：ドイツ系製薬企業をはじめ、外資系民間企業数社を経て、2007年より公立大学法人大阪府立大学学生センター学生課キャリアサポート室にキャリアカウンセラーとして採用。就職支援及びキャリア支援業務全般に従事。2011年より現職。学内のプロジェクト的な特命業務にも携わる。CDA（キャリア・ディベロップメント・アドバイザー）及び CBS（国際秘書）タイトルホルダー。

元外資系企業での秘書時代の実務経験がいかに関与の成長とアイデンティティの確立に貢献しているか、また、そのエッセンスは大学の事務のみならず、学生や教員に対する人的支援などに携わる大学職員の人材育成にも大いに役立つものと実感しています。

本分科会では、日々の業務を通しての OJT や自己研鑽に役立てていただきたい、その秘書実務におけるエッセンスをご紹介します。

分科会 D

「職員がつながる場づくり ～若手職員を中心とした自主的勉強会の実践知に学ぶ」

報告者：中原 正樹 氏（京都産業大学 総務部）

職員同士がもっと互いのことを知ることができれば、仕事がより楽しく円滑になるのでは！？

そんな思いから京都産業大学では、若手職員が自主的勉強会をスタートさせて3年目を迎えます。まず「つながること」を目指した勉強会は、大学内でヨコの人間関係を深めながら、大学間連携による交流会や学会参加など外部の活動にもつながりの場を広げはじめています。

本分科会では、様々な大学で行われている勉強会や交流会の事例を参考にしながら、若手職員が自主的勉強会を企画する動機や目的、そこから生まれる「つながり」の価値について、みなさんと一緒に考えていきたいです。勉強会について情報共有をしたい方、勉強会をはじめたり参加したりしていなくても何かの一步を踏み出したい方、大学を越えて人間関係を広げていきたい方等の参加を歓迎します。

分科会 E ※定員に達しました。

「組織の中で今をキラキラと輝かせるために～タマノイ酢の実践知に学ぶ」

報告者：寺澤 恵理 氏（タマノイ酢株式会社 社長室課長）

会社概要：醸造酢、粉末酢、各種調味料、レトルト食品および菓子・健康飲料などの製造・販売

会社で必要な人材は医師でもアスリートでも自前で育成し、中途採用も行っていません。また、勤務時間中に30分程度の運動を義務化しており、社内のスポーツジムで汗を流し、リフレッシュして仕事に戻ります。社内メールアドレスやPCも部署で共有し、業務の「見える化」を図られている注目の企業です。

創業：1907年（明治40年）6月 従業員数：300名（男性150名・女性150名）

主要製品：はちみつ黒酢ダイエット、すしのこ、パーポー、穀物酢、米酢 ほか

タマノイ酢では、若手を中心に平均1年で部署を異動させます。文系の社員が開発部門に移ったり、逆に理系の社員が営業をしたり、本人の経歴や経験にできるだけ関係のない部署を選んで、辞令が出ます。

また、若手たちがビックプロジェクトを担当します。大手企業との商談、新製品の開発、プロモーション活動、マスコミへの対応など、去年と同じ事はしません。毎回、新しい企画を生み出す事が求められます。

タマノイ酢の経営のテーマは「社員一人一人の成長と自立」。その環境を用意することがリーダーの役割です。組織の中で今をキラキラと輝かせるためには何が必要なのか。

みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

分科会 F

「個々のアイデアを具現化する自主性と自覚 ～未来工業の実践知に学ぶ」

報告者：阪本 誠 氏（未来工業株式会社 総務部総務課 課長）

会社概要：電気設備資材、給排水設備およびガス設備資材の製造販売

法律で規格化された電気設備資材という分野において圧倒的なシェアを持ち、経常利益率は常に15%を維持しています。この会社は年間休日140日以上、残業禁止、年功序列給与、定年70歳、全員が正社員。しかも社会の常識!?「ホウレンソウ」を禁止し、社員が「常に考える」仕事を徹底しています。TV「カンブリア宮殿」等、多数のマスコミが取り上げる注目の企業です。

創立：昭和40年8月 従業員：791名（平成25年3月20日現在）

弊社は1965年に創業し、まもなく50年経過しようとしています。

民間企業は利益を追求する団体ではありますが、如何にして、企業の存続と利益の追求を両立させて行くと良いのでしょうか。

そこで、弊社のモットーである「常に考える」を実践することをお話しさせていただき、今後の参考にさせていただきたいと思います。

16時15分～17時15分 第3部 交流会

2階ホールにて、立食形式の交流会を開催します。

<申込み・問合せ先>

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高等教育研究推進事業部

SDフォーラム事務局（担当：世雄・大澤）

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

TEL：(075) 353-9163 FAX：(075) 353-9101 E-mail：sd@consortium.or.jp

URL：http://www.consortium.or.jp/

※「公益財団法人 大学コンソーシアム京都」は、月曜日が休日ですのでご注意ください。